

第48回 青梅市公共交通協議会

協議資料2

目次

区分	項目	資料の骨子	ページ
協議事項	3. 河辺町1～3丁目地区におけるグリスロ実証運行計画(案)		
	3-1. グリーンスローモビリティ実証運行に関する経緯	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度までの経緯 ・参考として河辺町1～3丁目地区の地形 	2
	3-2. 河辺町1～3丁目地区におけるグリスロ実証運行計画(案)	<ul style="list-style-type: none"> ・実証運行の目的 ・運行内容 ・実証運行ルート、運行時間および本数、車両 ・各団体との協議状況について 	6
	3-3. 実証運行にあわせた調査および分析	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者数調査 ・利用者アンケート調査 ・地域住民アンケート調査 ・各調査結果の分析 	11
	3-4. 実証運行に関する今後のスケジュール	<ul style="list-style-type: none"> ・実証運行前(9月) ・実証運行時(10月～11月) ・実証運行後(12月～令和6年3日) 	17

3-1. グリーンスローモビリティ実証運行に関する経緯

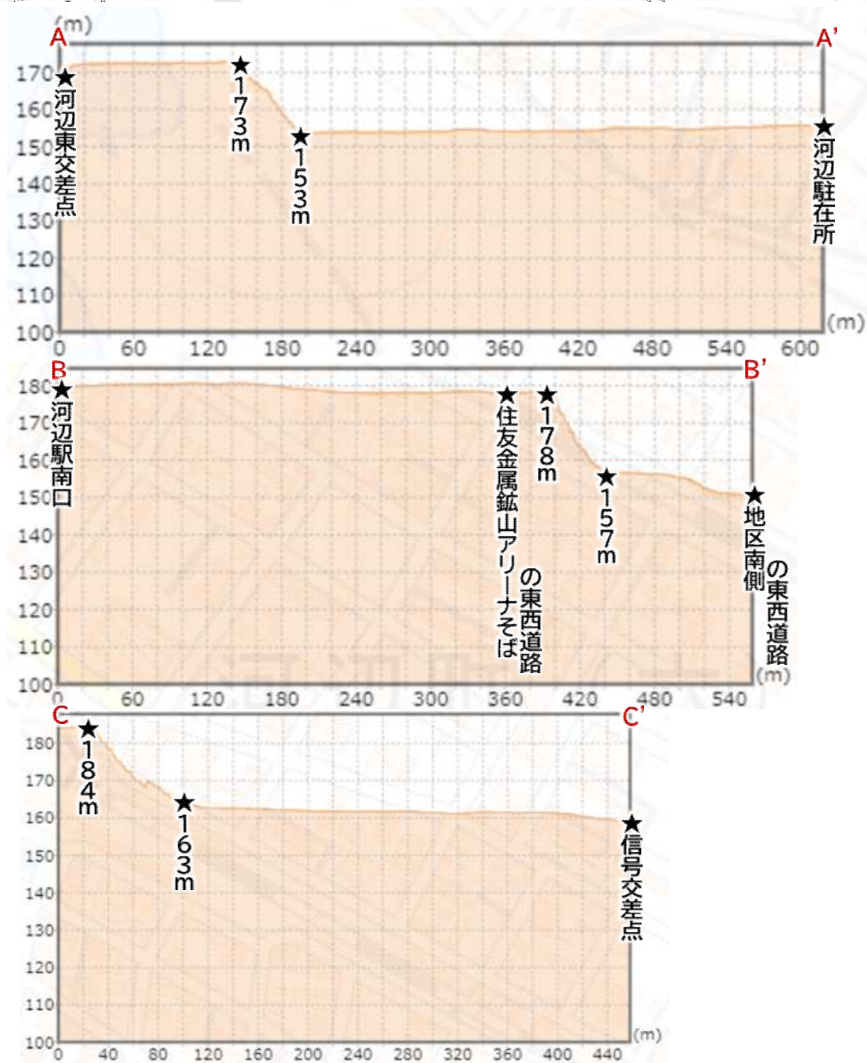
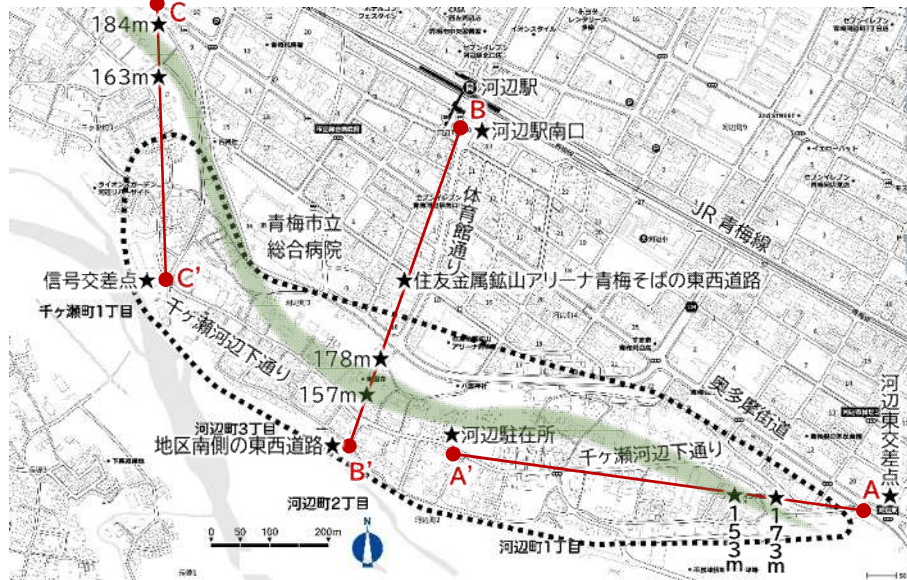
(1) 令和4年度までの経緯

- 鉄道と路線バスのサービス圏外のうち、特に新たな公共交通の導入効果が高いと考えられる河辺町1～3丁目地区を対象に、新規バス路線の導入検討を行いました。平成29年に安全性や経済性の点からいったん白紙に戻しました。
- その後、令和元年度に、路線バス以外の交通モードの導入について地域意向を把握するためワークショップを行い、令和2年度に新たな公共交通の利用意向を把握するために、アンケート調査を行いました。
- アンケート調査結果を踏まえ、令和3年度に収支の試算を行いました。また、令和4年度にはグリーンスローモビリティ(以下「グリスロ」とします。)等の展示会・試乗会を行いました。

年度	取組概要
平成29年度以前	<ul style="list-style-type: none"> ■新規バス路線の導入検討 ・安全性や経済性の点からいったん白紙
令和元・2・3年度	<ul style="list-style-type: none"> ■路線バス以外の新たな公共交通の導入検討 ・ワークショップ実施 ・アンケート調査実施(第37回協議会にて報告) ・運行ルートの想定、収支の試算等(第41回協議会にて報告)
令和4年度	<ul style="list-style-type: none"> ■グリスロの試乗イベントの実施 ・令和5年1月29・30日に実施(第46回協議会にて報告) ■グリスロの地元向け試乗会の実施 ・令和5年1月31日に実施(第46回協議会にて報告) ■上位計画における位置づけ ・第7次青梅市総合長期計画において、グリスロの取組推進 ・青梅市地域公共交通計画において、令和5・6年度に河辺町1～3丁目地区でグリスロの実証運行等、令和7年度以降に本格運行

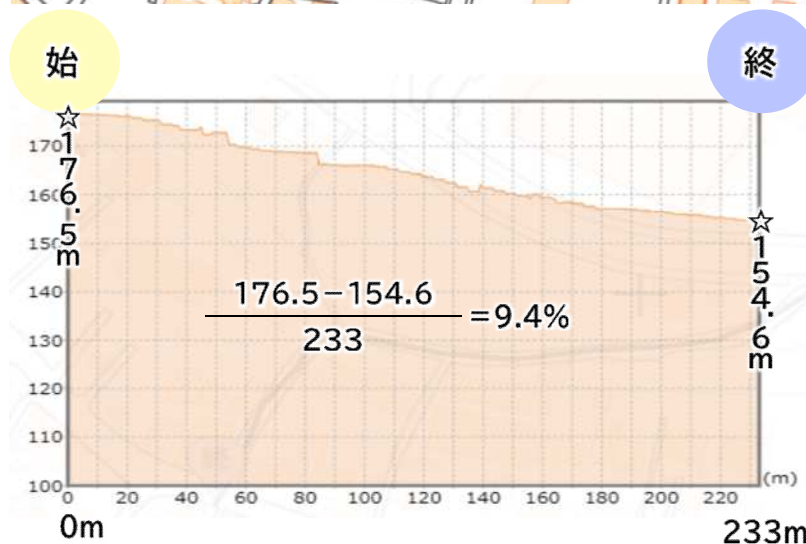
(2) 河辺町1～3丁目地区の地形

○JR河辺駅や青梅市立総合病院と河辺町1～3丁目の間には高低差があります。河辺町1～3丁目地区周辺の地形を、地理院地図を用いて断面図で示したところ、河辺町1～3丁目には多摩川に沿って崖線がみられます。平面距離50～60mの間に垂直距離約20mの落差があります。



○その落差について、市立総合体育館から河辺町2丁目にある河辺町南自治会館に至る市道の平均勾配を確認したところ、9.4%でした。

青梅市立総合体育館南側から河辺町南自治会館に至る坂道の道路勾配



出典：地理院地図

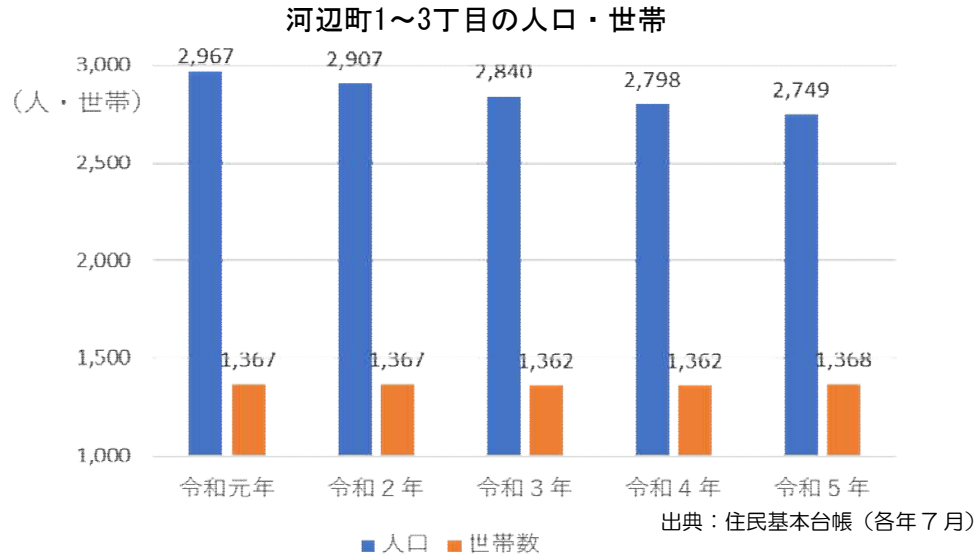
○青梅市移動等円滑化のために必要な道路の構造に関する基準を定める規則(第6条)によると、歩道等の縦断勾配は5%以下とするものとあり(やむを得ない場合は8%以下)、この坂道の9.4%は、歩行者にとってきつい坂であることがわかります。



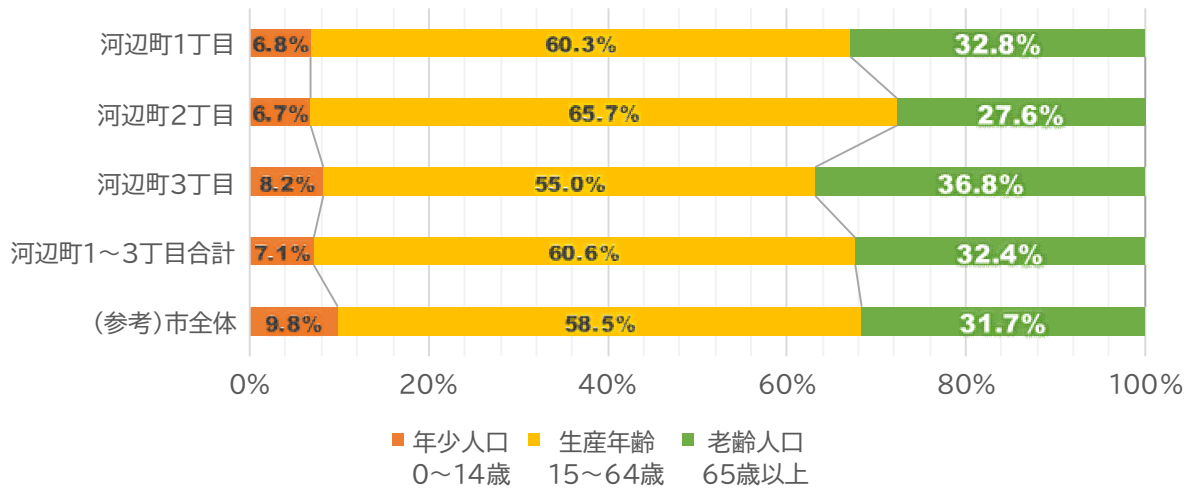
(3) 河辺町1～3丁目地区の人口

○河辺町1～3丁目の令和5年7月現在の人口は2,749人です。令和元年以降、毎年約43人のペースで減少しています。

○高齢化率は令和5年1月現在で32.4%であり、市全体の高齢化率とほぼ同じです。



河辺町1～3丁目の高齢化率（令和5年1月1日現在・男女合計）



3-2. 河辺町1～3丁目地区におけるグリスロ実証運行計画(案)

(1) 実証運行の目的

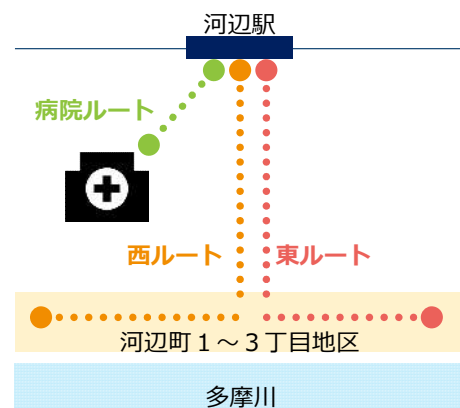
- グリスロの乗車を通じ、新たな移動手段を体験していただきます。
- 新たな移動手段の本運行を見据えた「需要」と「課題」を探ります。
- 地域公共交通計画の目標達成を見据え、鉄道・路線バスのサービス圏外の解消を目指す上での「課題」を探ります。

青梅市地域公共交通計画における位置づけ

7 実施工程							
公共交通施策は、以下の工程により推進します。							
公共交通施策	現状	実施工程(年度)					
		前期					後期 ～令和14 (2032)
		令和5 (2023)	令和6 (2024)	令和7 (2025)	令和8 (2026)	令和9 (2027)	
(1)公共交通のネットワークとサービスの維持	①施設送迎バスの活用 検討/実証実験						
	②既存の公共交通の補充 検討/実証実験						
	③まちづくりにあわせた路線の再編 まちづくりの動向の注視/検討						
(2)鉄道と路線バスのサービス圏外*の解消	④新たな公共交通の導入 検討/実証運行						

(2) 運行内容

- 運行主体 青梅市(市民安全部交通政策課)、青梅市公共交通協議会
- 運行期間 令和5年10月～11月(2ヶ月)
- 運行形態・運賃 定時定路線(予約不要)・全区間無料
- 運行区間 河辺駅南口～河辺町1・2丁目方面(東ルート)
～河辺町3丁目方面(西ルート)
～青梅市立総合病院(病院ルート)
- 運行日 月曜日～土曜日(日・祝日は全便運休)
- 運行時間 8:00～正午、午後2時30分～午後4時30分
(1日あたり最大6時間)
- 車両 7人乗りグリーンスローモビリティ(ヤマハ発動機AR-07/1台)
- 乗務員 京王自動車株式会社青梅営業所(運行管理)
- 車両および運行支援 ヤマハ発動機株式会社、一般社団法人日本自動車連盟(JAF)
- 事業支援 東京都都市整備局都市基盤部交通企画課



(3) 実証運行ルート

- 鉄道と路線バスのサービス圏外にあり、かつ勾配の厳しい河辺町1～3丁目地区と、利用意向が最も高かった河辺駅を結ぶルートで運行します。
- あわせて、潜在需要の高い青梅市立総合病院と河辺駅を結ぶルートでも運行します。また、地元からの要望や走行ルートの交通事情を考慮し、次ページに記載のとおり、午前の便を中心に青梅市立総合病院と河辺駅南口の停車順序を逆にしています。
- ルートは基本的に市道とします。都道や国道と交差する箇所は発生しますが、都道・国道は走行しません。
- 青梅市立総合病院は11月の新病棟稼働時から「市立青梅総合医療センター」に病院名称を変更します。停留所名も合わせて名称変更を行います。

運行ルート（距離は片道）

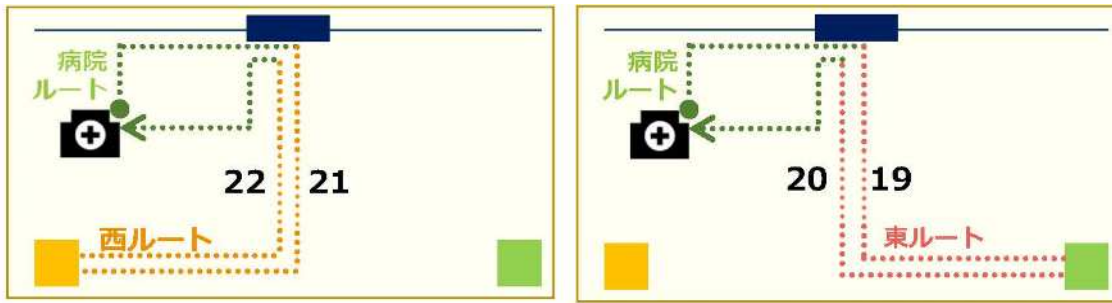


(4) 運行時間および本数

- あさ便は午前8時から正午まで、ごご便は午後2時30分から午後4時30分まで運行します。なお、平日と土曜日でダイヤの変更はありません。
- 東ルート、西ルートともに毎時1本程度の運行とします。病院ルートは全便東ルート、西ルートと直通することから、毎時2本程度の運行とします。
- 平均営業速度を10km/hとして算出しますが、信号待ちやイベント等での試走を踏まえ、走行時間を算出しています。
- 路線バスと重複する病院ルートの運行時刻については、路線バスの時刻を考慮します。

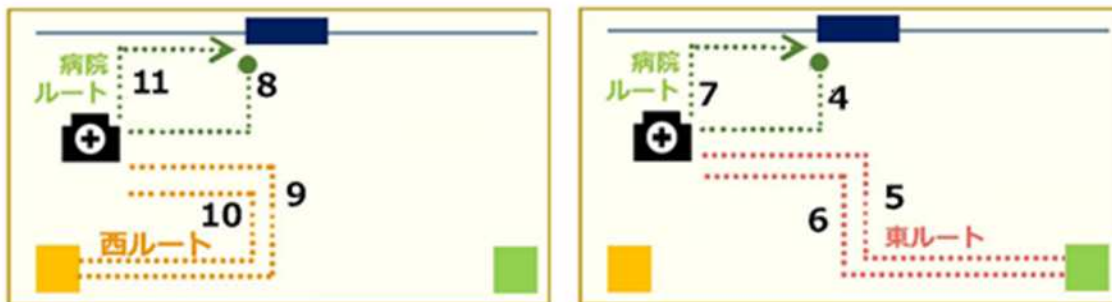
運行ルート案

【基本】青梅市立総合病院を起終点とし、河辺駅南口を經由



【朝の一部便】河辺駅南口を起終点として、病院を經由

(通院需要、道路事情などを考慮)



(図中の数字はいずれも便名)

(5) 車両

○ヤマハ発動機AR-07 1台

走行方式	手動式 / 自動式
全長	3,955mm
全幅	1,354mm
全高	1,837mm
軸間距離	2,940mm
トレッド 前/後	965 / 975mm
最低地上高	115mm
車両重量(手動/自動)※	590kg / 610kg
最小回転半径	4.5m
乗車定員	7人
ナンバー登録時	小型自動車

駆動方式	DCモーター
バッテリータイプ	リチウムイオンポリマー電池 73V×113Ah
定格電圧	72V
定格出力	3.5kW
充電器方式	車載式定電流充電器(单相200V)
登降坂性能	20度登降坂
手動時走行速度	0～19km/h
ブレーキ方式	油圧式四輪ディスク
パーキングブレーキ方式	電磁ブレーキ オートロック
タイヤサイズ	190/50-12 4PR
サスペンション 前/後	前：ダブルウィッシュボーン式 後：リンク式
ステアリング	ラック&ピニオン式



出典：ヤマハ発動機（株）ホームページ

(6) 各団体との協議状況について

月日	協議団体名	協議概要
7月12日	交通管理者(青梅警察署)	グリスロ実証運行に係る協議 (上記(1)~(5)を中心に、 協議日時点の内容をもとに協議)
7月19日	地元自治会(河辺町1~3丁目)	
7月20日	国土交通省関東運輸局東京運輸支局	

- 交通管理者との協議では、主に下記のご意見をいただきました。
 - ・停留所については、私有地を活用されたい。
 - ・運行中の車両については「低速走行中」などの表示を掲出されたい。
- 地元自治会との協議では、主に下記のご意見をいただきました。(参考資料を参照)
 - ・午前10時から午後4時までとしていた運行時間について、高齢者の通院等の需要を考慮し、より早い時間帯から運行した方がよい。
 - ・東ルートの南白はけ公園外周でターンするのは交通事情を考慮すると難しい。
 - ・店舗でもマンションでも停留所が設置できたら、その人たちにもメリットがあるので、交渉すれば可能だと思う。マンション住民も高齢化しているので、その駐車場などで乗降ができると良い。
- 国土交通省関東運輸局東京運輸支局との協議では、主に下記のご意見をいただきました。
 - ・今回の実証運行は運賃が無料であるため、道路運送法のどの項目にもあてはまらない。今後、有料にするときは相談されたい。
 - ・河辺駅南口の停留所の設置は交通事業者等と調整し、問題ないように進めてほしい。
 - ・本運行に向けて、持続性のあるしくみづくりが必要である。

3-3. 実証運行にあわせた調査および分析

(1) 利用者数調査（全数）

○以下の項目を想定し、乗務員に調査を依頼します。

- ・便別停留所別に乗車数・降車数の記録

(2) 利用者アンケート調査（協力者のみ）（12～16ページ参照）

○利用者を対象に、以下の項目を想定した調査票および返信用封筒を車内で配布し、下車後記入していただきます（降車時など安全面を考慮したタイミングで、乗務員からアンケート協力を呼びかけていただくよう、依頼します）。

- ・あなたご自身（性別、住まい、年齢、世帯構成、職業、自動車運転免許の所持、普段自由に利用できる乗り物）
- ・今回の利用状況（乗車停留所、降車停留所、当日の利用頻度（片道もしくは往復））
- ・今回の利用目的（通勤、通院、買物など）
- ・今回の鉄道や路線バスとの乗り継ぎ時間
- ・一週間あたりの利用頻度
- ・実証運行が始まる前の交通手段
- ・実証運行の改善点
 - ・運行ルート（理由を具体的に）
 - ・停留所の位置（理由を具体的に）
 - ・運行時間帯（理由を具体的に）
 - ・車内の快適さ（理由を具体的に）
 - ・その他（具体的に）
- ・実証運行による外出頻度の変化
- ・本運行を見据え、料金徴収の方法
- ・より多くの人に利用してもらうための工夫
- ・持続運行のため地域が主体となって取り組むこと
- ・自由意見

(3) 地域住民アンケート調査

○アンケート内容については、今後本実証運行を支援していただいている東京都都市整備局都市基盤部交通企画課と協議します。

(4) 各調査結果の分析

○東京都都市基盤部交通企画課が取りまとめて分析を行い、2月から3月にかけて行われる予定の公共交通協議会や住民説明会にて報告を行います。

①あいさつ文

新たな地域公共交通サービスをご利用いただいたみなさまへ
河辺町 1～3 丁目地区グリーンスローモビリティ実証運行について
皆さまの声をお聞かせ下さい。

本アンケートは、青梅市公共交通協議会が株式会社アルメックに委託して実施しております。

青梅市公共交通協議会（※）は、青梅市市民安全部交通政策課を事務局として、宮口泉（青梅市自治会連合会会長）を会長におき、青梅市における公共交通の活性化に向けた検討を進めております。

※青梅市公共交通協議会の法的根拠は、「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」の第 6 条第 1 項の規定にもとづくもので、青梅市における地域公共交通総合連携計画の作成に関する協議および連携計画の実施にかかる連絡調整を行うことを目的として、平成 23（2011）年 8 月 22 日に設置されました。

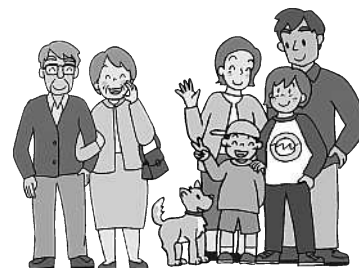
さて、青梅市公共交通協議会では、令和 5 年 3 月に青梅市が策定した青梅市地域公共交通計画に基づき、河辺町 1～3 丁目地区を対象に、新たな地域公共交通サービスの導入を検討しており、現在、実証運行を行っています。

つきましては、実証運行に関する利用状況や利用頻度、改善点などを把握することを目的に、利用者のみなさまを対象に「アンケート調査」を実施することにいたしました。

アンケートの結果は、今後の実証運行や本運行に向けて、可能性や持続性を高めるための検討に活用します。

ご多忙のところ大変恐縮ではございますが、調査にご協力いただきますようお願い申し上げます。

青梅市公共交通協議会 会長 宮口 泉



■本調査について

- 本調査は、青梅市公共交通協議会が株式会社アルメックに委託して実施しております。
- 本調査票は、利用者のみなさまを対象に車内で配布したものです。
- ご回答いただいた調査結果は、統計的に処理した集計結果のみを活用させていただくものであり、個々の回答が公表されることは一切ございません。

■回答のお願いについて

- 回答は、このアンケートを受け取った日に、新たな地域公共交通サービスをご利用になったご本人様のご記入ください。ご本人様によるご記入が難しい場合は、他の方に代筆していただいても結構です。
- 同封のアンケート調査票に直接ご記入ください。
- 回答には、番号に○印をつけていただくものと、ご記入いただくものとがございます。
- 「そのほか」にあてはまる場合は、（ ）内にその内容を具体的にご記入ください。
- 回答は、お一人様 1 回までです。

■投函のお願いについて

- 必要事項をご記入の上、令和 5 年〇月〇日（〇）までに、このアンケートが入っていた封筒に入れ、郵便ポストにご投函ください。（切手は必要ありません。）

■回答および返送に関する問い合わせ先

- 株式会社アルメック 青梅市河辺町アンケート調査係 電話 03-3353-3203（直通）
- 青梅市 市民安全部 交通政策課 交通政策担当 電話 0428-22-1111（内線 2557）

あなたご自身について、お聞きします。

【問 1】 性別を教えてください。(あてはまる番号 1 つに○)

- | | | |
|------|------|--------|
| 1 女性 | 2 男性 | 3 そのほか |
|------|------|--------|

【問 2】 住所を教えてください。(あてはまる番号 1 つに○の後、記入)

- | |
|--|
| 1 青梅市内の場合：() 丁目 [回答例：(河辺町 1) 丁目] |
| 2 青梅市外の場合：() 市 区 町 村 [回答例：(羽村) (市) 区 町 村] |

【問 3】 年齢を教えてください。(あてはまる番号 1 つに○)

- | | | | |
|-----------|------------|-----------|-----------|
| 1 18～19 歳 | 2 20～29 歳 | 3 30～39 歳 | 4 40～49 歳 |
| 5 50～59 歳 | 6 60～64 歳 | 7 65～69 歳 | 8 70～74 歳 |
| 9 75～79 歳 | 10 80～84 歳 | 11 85 歳以上 | |

【問 4】 世帯構成を教えてください。(あてはまる番号それぞれ 1 つに○)

- | | | |
|---------|------------|-------|
| 1 一人暮らし | 2 夫婦のみ | 3 親と子 |
| 4 親と子と孫 | 5 そのほか () | |

(上記で 3 または 4 と答えた方) 未就学児 (小学生未満) の子どもは、 1 いる 2 いない

【問 5】 職業を教えてください。(あてはまる番号 1 つに○)

- | | | | |
|-------------|-------|------------|------------|
| 1 会社員、公務員 | 2 自営業 | 3 学生 | 4 専業主婦 (夫) |
| 5 パート、アルバイト | 6 無職 | 7 そのほか () | |

【問 6】 自動車の運転免許証は所持されていますか。(あてはまる番号 1 つに○)

- | | |
|-------------|----------------------------|
| 1 所持している | 2 所持しているが、自主返納を考えている |
| 3 すでに自主返納した | 4 所持していない (免許更新せず失効した方も含む) |

【問 7】 自動車やバイク、自転車など、普段自由に利用できるものは何ですか。

(あてはまる番号すべてに○)

- | | |
|---------------------------|----------------|
| 1 自分で運転する自動車を持っている | 2 乗せてもらう自動車がある |
| 3 バイクを持っている | 4 自転車を持っている |
| 5 利用できる自動車やバイク、自転車は持っていない | |

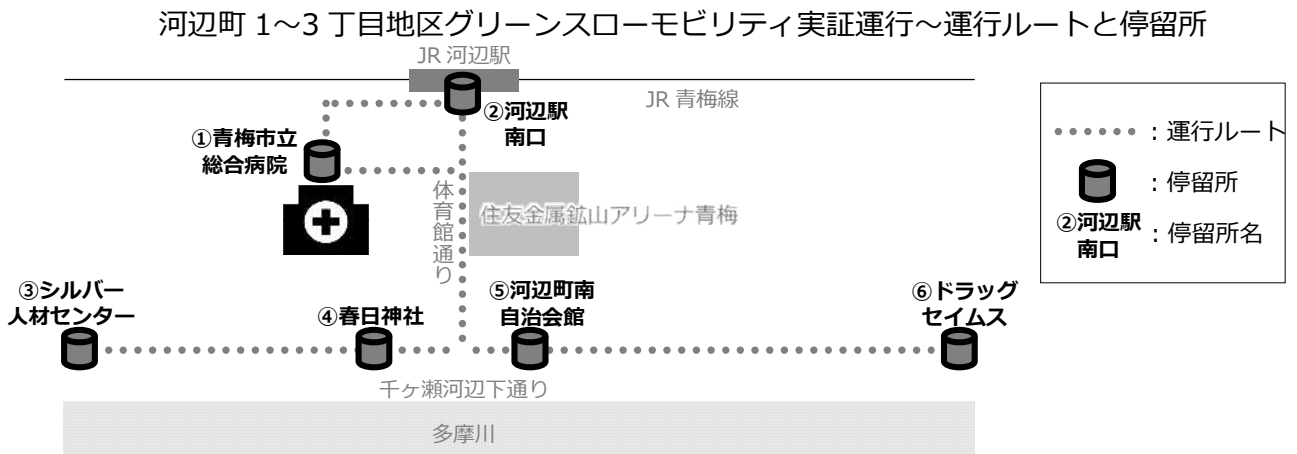
新たな地域公共交通サービスの利用について、お聞きします。

【問 8】今回は、誰とご乗車されましたか。(あてはまる番号 1 つに○)

1 一人	2 友人・知人	3 家族	4 その他 ()
------	---------	------	-----------

【問 9】今回ご利用された停留所について、下図の番号でお答えください。また、(往復または片道)について、あてはまる方に○をしてください。

乗車停留所 () 降車停留所 () : 下図の中の①～⑥の中から選んで記入	
1 往復	2 片道



【問 10】今回のご利用の主な目的について教えてください。(あてはまる番号すべてに○)

1 通勤	2 通学	3 買い物
4 通院・見舞い	5 銀行・郵便局の利用	6 趣味・娯楽
7 市役所	8 体育館や図書館など	8 その他 ()

【問 11】今回のご利用で、鉄道や路線バスとの乗り継ぎはされましたか。(あてはまる番号 1 つに○の後、必要に応じて記入)

1 河辺駅で鉄道と乗り継ぎあり その際の乗り継ぎ時間 (約 分)	2 河辺駅で路線バスと乗り継ぎあり その際の乗り継ぎ時間 (約 分)
3 総合病院前で路線バスと乗り継ぎあり その際の乗り継ぎ時間 (約 分)	4 乗り継ぎなし
5 その他 ()	

【問 12】 一週間あたりの利用頻度を教えてください。(あてはまる番号 1 つに○)

1 週に 6・7 日程度	2 週に 4・5 日程度	3 週に 2・3 日程度
4 週に 1 日程度	5 週に 1 日未満	6 今回が初めての利用
7 その他 ()		

【問 13】 本実証運行が始まる前に、ご利用されていた交通手段について教えてください。(あてはまる番号 5 つまで○)

1 徒歩	2 自転車	3 バイク
4 自家用車 (自分で運転)	5 自家用車 (家族等が運転)	6 タクシー
7 路線バス	8 鉄道	9 その他 ()

【問 14】 本実証運行に関する満足度について、a～fの項目ごとにあてはまるものに「○印」をつけてください。また、改善点などの意見がありましたらご自由に記入してください。

a 運行ルート	1 満足	2 やや満足	3 普通	4 やや不満	5 不満	改善点などの意見 ()
b 停留所の位置	1 満足	2 やや満足	3 普通	4 やや不満	5 不満	改善点などの意見 ()
c 運行時間帯	1 満足	2 やや満足	3 普通	4 やや不満	5 不満	改善点などの意見 ()
d 運行ルート	1 満足	2 やや満足	3 普通	4 やや不満	5 不満	改善点などの意見 ()
e 車内の快適さ	1 満足	2 やや満足	3 普通	4 やや不満	5 不満	改善点などの意見 ()
f その他	1 a～e 以外の項目 ()					改善点などの意見 ()

【問 15】 本実証運行による外出頻度の変化について教えてください。(あてはまる番号 1 つに○)

1 増えた	2 変わらない	3 わからない
4 その他 ()		

【問 16】 本実証運行は、運賃は無料で実施しておりますが、本運行に移行した際は、市内の他の公共交通と同様に料金を徴収するという考え方があります。どのような方法が望ましいと思いますか。(あてはまる番号 1 つに○)

- | | |
|-------------------------|---------------------|
| 1 利用時にその都度支払う | 2 1ヶ月から数ヶ月単位で事前に支払う |
| 3 登録制とし、半年または年単位で事前に支払う | |
| 4 わからない | 5 そのほか () |

【問 17】 本運行に移行したのち、より多くの方に持続的にご利用いただくため、地域が主体となって取り組んでいくことが重要です。どのような方法が望ましいと思いますか。(あてはまる番号すべてに○)

- | |
|--|
| 1 運行や車両（グリーンスローモビリティ）を中心としたイベントを継続的に行う |
| 2 継続的な活動が重要であるため、例えば「支える会」を立ち上げ組織化する |
| 3 継続運行の判断基準を設定し、基準にもとづく結果により見直しなどを行う |
| 4 わからない |
| 5 そのほか () |

【問 18】 青梅市の公共交通(本実証運行を含む)に関するご意見等があれば、ご記入ください。

アンケート調査は以上です。ご協力ありがとうございました。

記入後は、令和5年〇月〇日(〇)までに返信用封筒(切手不要)に入れて、ご投函ください。

【回答および返送に関する問い合わせ先】

株式会社アルメック 青梅市河辺町アンケート調査係 電話 03-3353-3203 (直通)

青梅市 市民安全部 交通政策課 交通政策担当 電話 0428-22-1111 (内線 2557)



3-4. 実証運行に関する今後のスケジュール

	r5	9	10	11	12	r6	1	2	3
警察・地元協議		■							
車両レンタルに関する調整・手続き		■							
乗務員に関する調整・手続き		■							
周知(チラシ配布)		■							
停留所調整・設置		■ 調整							
実証運行			■	■					
利用者数調査			■	■					
利用者アンケート調査			■	■					
地域住民アンケート調査					■	■	■	■	
分析									
産業観光まつり			■						
協議会	○					○			○